

甲南大学法科大学院入学試験問題について

2019 年度春入学

社会人特別選抜入学試験（12月選抜・12月2日分）

試験科目：刑法

1. 出題趣旨

第1問は、詐欺罪と窃盗罪の区別や、窃盗罪における財物の占有の認定など、財産犯の基本的論点に対する理解を問うものであり、第2問は、最高裁平成11・12・20・刑集53巻9号1495頁を素材に、文書偽造罪及び同行使罪についての理解を試すものである。解答にあたっては、単に結論ないし結論として成立させた罪の要件のみを述べるのではなく、前提となる法解釈や事実評価を過不足なく論述する必要がある。

2. 採点実感

問題文に表れた事実がどのような犯罪の成否に関係があると考えているかについての一応の記述はみられるものの、いかなる事実がどのような法的問題点を提起するのかに関する記述が不十分であるものや、各論点ないし適用条文の相互関係に関する理解が正確とはいえない答案、事実評価の前提となる法解釈とその根拠についての言及が不十分なものが見受けられた。

3. 学習方法

条文を確認しながら教科書を読みこむことが基本である。判例は、判示部分だけでなく、事案とセットで理解する必要がある。さらに、法的論争点については、抽象的に説明するのではなく、典型例・具体例を挙げながら説明できるよう心掛けられたい。また、事実評価の前提となる法解釈については、なぜそのような規範となるのか、理由とともに十分に説明できるようにされたい。